

令和5年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	基本的な「知識・技能」が身に付いておらず、「思考・判断・表現」に関わる問題の正答率が特に低く、課題となっている。辞書の活用による語彙力向上をめざしたり、漢字を用いて文章を書く活動を増やしたりすることで、基礎知識の定着を図る。
社会	全体的に正答率が低く、基礎的な「知識・技能」が身に付いていない。工業や農業など見学することが困難な内容について、児童の身近なものと感じられるよう、資料提示や体験活動の工夫が必要である。また、日常的に自分の考えを書いたり話したりする活動を取り入れることで、記述問題の正答率も上げる。
算数	他教科に比べると正答率は高いが、「活用」に関わる問題の正答率が低い点が課題である。児童が興味をもつような課題提示や、学ぶ楽しさを味わうことのできる学習展開の工夫をめざす。また、考えを説明したり話し合ったりする活動も取り入れていく。
理科	全体的に正答率が低く、基礎的な「知識・技能」が身に付いていない。児童が関心をもって学習に取り組めるよう、教科書や視聴覚教材だけでなく、身近な道具や物質をもとに授業を展開する工夫が必要である。課題解決や実験の方法を自分たちで考えて実践する経験も積ませていく。

本校の教育目標
○思いやる子
○考える子
○がんばる子
○すこやかな子

本校が児童に育成したい力
<ul style="list-style-type: none"> ○漢字や語彙力、計算等の基礎・基本の定着と向上 ○必要な情報を精査して読み取ったり、文章の内容を的確に捉えたりする力 ○課題を捉え、解決方法を自ら導き出す力 ○自分の考えの根拠を示しながら、筋道を立てて説明できる力

学力向上にかかわる経営方針
<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究を推進し、主体的に学習する児童の育成を図る。 ○加配を生かした算数科での習熟度別少人数指導を実施し、習熟度に応じた指導の工夫を行うことにより、基礎学力の定着を図る。 ○学力格差解消加配教員による基礎基本の定着と、計画的な家庭学習の推進を図る。 ○東京ベーシックドリルを定期的実施したり、学力フォローアップ教室を活用したりすることで、基礎学力の補充・定着を図る。 ○全校統一の授業規律の徹底を図り、児童が落ち着いて学習できるようにする。 ○辞書を授業で活用する。 ○家庭との連携を図り、家庭学習を通して、漢字や計算の確実な習得をめざす。

校内における学力向上推進体制
<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上委員会を設置し、東京ベーシックドリルの取組や習熟度別少人数算数の指導法について話し合い、計画的に進めていけるようにする。 ○学力パワーアップ講師、学級経営支援員、理科支援員等を学習内容や児童の実態に合わせて意図的・計画的に配置する。 ○3～6年生の学力フォローアップ教室の充実を図る。 ○特別な支援を要する児童への校内体制の整備と関係機関との連携を深める。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○単元全体の見通しをもった計画を立て、一単位時間の授業を大切に、「めあて」に始まり「まとめ・振り返り」で終わる授業を行う。 ○3～6年生においては、加配を生かした習熟度別少人数指導を実施し、個への指導を充実させるとともに、基礎基本の定着を図る。 ○3～4年生においては、学力格差解消加配を生かし、国語における言語能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画や各単元の評価規準を基に、週の指導計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。 ○週1回15分間「ベーシックタイム」を設定し、算数を中心に東京ベーシックドリルに取り組み、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。 ○辞書を活用した授業を行うなど、日常の様々な場で児童の言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究は、「児童の学ぶ意欲を育む見方・考え方を意識した授業展開の工夫」を研究主題として進める。年間3回の研究授業を通して、児童の実態に即した授業改善を行う。 ○OJT研修を通して、教員の指導力の向上を図る。 ○授業力向上ペアリングシステム(教員がペアまたはトリオになり、互いに授業を見合って学び合う)を実施し、授業力向上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価規準を明確にし、個々の児童に応じた評価を行う。評価を基に個に対しての適切な支援を考え、実行する。 ○他者と関わる時間や振り返る時間をとることで、互いのよいところを認め合い、自己肯定感の向上につなげる。 ○自己評価や児童相互による評価、教員によるコメント等、授業の内容に応じた評価を随時行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者会や個人面談等を通して、児童の実態について共通理解を図る。 ○家庭と連携をとり、家庭学習の充実と習慣化を図り、漢字や計算の確実な習得をめざす。 ○スクールコーディネーターと連携・協力して、学習に必要な人材を確保する。 ○保護者、学校評議員等による学校評価を計画的に行い、地域に信頼される教育を推進する。